

JEEF 海外事業グループの事業のご紹介 人を育てる、世界を変える

現在、世界では人口増加が進んでいます。しかし、私たちの生活や社会を支える基盤である地球の環境容量は限られています。このような世界が抱える課題に対して、世代や地域の違いを超えて自然について学び、自然の共存や活用の在り方について考え、持続可能な社会につなげることが大切です。

こういった問題を解決するには、様々なアプローチがあると思います。JEEFの海外事業グループでは、「人材育成」に焦点を当てて、事業を展開しています。今回は、実際にどういった活動をしているのかご紹介します。

SATOYAMAUMI プロジェクト

このプロジェクトでは、経団連自然保護基金から助成を受け、日本環境教育フォーラム、一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン、バードライ・フィインターナショナル東京が協働し、2017年から2020年まで活動しました。

具体的な活動として、人材育成と普及啓発を活動の軸に、世界6地域において、次の活動を

行いました。

- 現場での活動基礎となる教材やプログラム開発
- 実践を通して地域の持続可能な発展の中心となる住民の人材育成
- 活動を推進する若手NGO職員の人材育成

また、都市部の若い世代をターゲットに、自然や生物多様性を保全することが、社会や経済の開発に大切なことを学び、将来的な企業、政治、社会などの様々な場所で活躍してもらうことも目的として、次の活動を実施しました。

- 環境リーダーシップ講座：都市部のユース層向けに、環境問題とそれに対する取り組みについて総合的に学ぶ講座
- 海外インターンシップ：現地プロジェクトに参加し、保全活動の最前線を体験

本プロジェクトに参加した現



水質を調査する学生たち

地NGO職員やインターンからは、自身の成長について、とてもポジティブなご意見をいただいています。

プロジェクト自体は2020年3月に終了しましたが、その後オンライン教材を作成・公開し、世界のどこにいても環境について学ぶことができる機会を提供しました。また、2021年度は「環境リーダーシップ講座」を実施し、より環境分野で活躍できる人材を増やすべく、生物多様性に関する情報提供を行いました。



水辺で学ぶ学生たち



「NGO ラーニング インターンシップ プログラム in インドネシア」修了式

インドネシアでの 取り組み

ジャカルタ首都圏の大学生を対象とした「NGO ラーニング インターンシップ プログラム in インドネシア」を実施しています。これはSOMPO 環境財団主催のプログラムであり、日本で長い実績を持つ「CSOラーニング制度」の海外版となります。日本での卒業生が1000人を超えたこともあり、その実績をもとに海外でも同様の事業を展開したいというSOMPO 環境財団からの依頼を受けて、JEEFがインドネシアでの実施運営を担当しています。

2019年2月に始まった同制度では、毎年20名の学生が10のNGOにイン

ターンとして派遣され、8か月間をかけて実務経験を積むこととなります。毎年200名以上の応募者から選ばれる20名は、環境問題を専門に学ぶ学生だけではなく、あえて多様な学科から選出され、日ごろ環境活動に縁の薄い学生が環境NGOでのインターンを通じて、広く環境問題について学ぶことのできる形で実施しています。

派遣先NGOも多様性に富んでおり、生物多様性保全に取り組む国際NGOや保護されたオランウータンを野生に返すためのリハビリテーションを実施している団体、小学生を対象とした環境教育に取り組む団体、ゴミの3Rに取り組む団体など、学生の興味関心に合わせて、様々な学びの形を提供することが実現できています。

毎月受け取る学生からのレポートからは、月を重ねるごとに記述に厚みが増していることを実感でき、事務局としては大

きなやりがいを感じています。また、インターン学生の活動ではSNSでの情報発信が必須になっていること、そして各学生が趣向を凝らして記事を発信していることに大きく感心します。

本プログラムはこれまでの3年間で60名が修了生として巣立っていきます。また、来年度以降も多くの学生を迎えることになるでしょう。若い世代のプログラム参加者が、インドネシアで新たな環境活動のムーブメントを起こしてくれることに大きく期待しています。

今回は、海外事業グループの活動の一部をご紹介します。「人を育てる、世界を変える」JEEFが大切にして、活動していきます。これからも海外事業グループの活動にご期待ください！



インターン生は、JEEF が実施するエコツーリズムサイトで自然体験活動にも参加しました



現場体験の一環で田植えをする学生